

# 大豆「津久井在来」標準系統の選定について

野菜作物研究部

神奈川県内の大豆生産は、旧津久井地域の在来系統である「津久井在来」を中心に行われています。

「津久井在来」は昭和50年代に優良系統の選抜が行われ、選抜した系統が県内各地で栽培されるようになりました。しかし年月を経る中で、栽培する地域によって子実形質などの特性に違いが生じてきていることが指摘されていました。そこで農業技術センターでは平成17年度から、県内各地で栽培されている「津久井在来」を収集し、特性比較試験やDNA解析などの研究を行ってきました。

平成20年度からは、「津久井在来」生産振興の取組が県央地域県政総合センターが中心となって、関係者による連絡会議が開催され、来歴が明らかな生産物を実需者へ供給することが課題として挙げられました。そこで、現地で生産されている系統の中から標準的な系統を一つ選定しようということになり、農業技術センターで、これまでの研究成果を活用し、現地で生産されている系統の中で代表的な平塚市、秦野市、相模原市（旧津久井郡）の3系統の比較試験を行いました(写真1)。

その結果、相模原市（旧津久井郡）の系統は、平塚市及び秦野市の系統と比較し、子実や草丈、成熟期などの特性が、過去に報告されている「津久井在来」の特性にほとんど一致している、という結果が得られました。また、DNA解析の結果からもその形質が遺伝的に安定していることを確認しました。

これらの試験結果に基づき、相模原市(旧津久井郡)で生産されている系統が「津久井在来」の標準系統として選定されました(表、写真2)。

この「津久井在来」標準系統の生産者団体による種子生産体制について、現在検討が進められています。



平塚市 旧津久井郡 秦野市  
写真1 栽培試験の様子



上段:旧津久井郡  
中段:平塚市  
下段:秦野市

写真2 各系統の子実外観

表 各系統の栽培特性(平成22年)

系統名	開花期 (月・日)	熟期 (月・日)	主茎長 (cm)	上子実重 (kg/a)	百粒重 (g)	葉の形	花色	子実		
								形	種皮色	臍色
相模原市 (旧津久井郡)	8.12	11.2	51.3	38.9	32.8	卵形	紫	偏球	黄白	褐 (淡褐)
平塚市	8.11	11.2	53.3	32.7	31.3	卵形 (鋭先卵形)	紫	偏球	黄白	淡褐 (白・褐)
秦野市	8.14	11.10	71.9	38.7	31.3	鋭先卵形	紫	偏球	黄白	淡褐 (褐)
津久井在来 (昭和53~56年)	8.18	11.1	57.5	34.8	31.6	卵形	紫	偏球	黄白	褐 (淡褐)

括弧:一部の個体に見られる形質

津久井在来の栽培特性は「大豆「津久井在来」に関する試験成績書」(昭和57年6月発行)より引用